

給付型奨学金制度について



教育福祉常任委員会

(1) 国の修学支援制度

〔現 状 認 識 (課題)〕

- ・ 経済状況が困難な家庭の子供ほど大学等への進学率が低い。
- ・ 最終学歴によって平均賃金に差がある。
- ・ 理想の子供数を持たない理由の1位は「子育て・教育にお金がかかりすぎる事」
(特に高等教育費用の負担大)

〔政策の方向性〕

貧困の連鎖を断ち切り
格差の固定化を防ぐ

少子化対策に資する

修学支援制度を設立 (令和2年度)

授業料
免除

給付型
奨学金

(2) 県の概要①大学等進学率

全国⇒55.8%

沖縄⇒40.8%

「高等教育を受ける機会の創出・環境整備等に係る調査報告書」
沖縄県HPより抜粋

(2) 県の概要②世帯年収

全国⇒680万

沖縄⇒420万

「令和2年度沖縄公庫教育資金利用者調査報告」
沖縄振興開発金融公庫HPより抜粋

(2)県の概要③教育費の負担割合



教育費の負担割合
世帯年収200～400万
⇒ 48・5%

世帯年収200万円以下
⇒ 89・0%

「令和2年度沖縄公庫教育資金利用者調査報告」
沖縄振興開発金融公庫HPより抜粋

(3)那覇市の給付型奨学生制度

令和3年度

那覇市奨学生募集

～向学心に燃えるあなたを応援します！～

那覇市では、成績が優秀で修学する意欲があるにもかかわらず、経済的な理由で進学が困難な方を支援するため、返済義務のない給付型奨学生を実施しています。

返済不要！

他の奨学金と併用可！



1. 支援内容

- ◇入学支度金（入学金及び施設費） 入学時 282,000 円（上限）
- ◇授業料 各年次 720,000 円（上限）

☆国の修学支援制度との併用☆

<例：私立大学 授業料75万円/年額の試算>

那覇市奨学金を併用しない場合

那覇市奨学金を併用した場合



「令和3年度那覇市奨学生募集」
那覇市HPより抜粋

(4)市議会における審議の概要①

議員の質問

令和2年度決算において、当初予算額1398万円に対して、決算額が496.2万円である。

補正予算で719万に予算を減額したにもかかわらず、それでも不用額(余った予算)が296万円、予算執行率が62.7%になっている。その理由は？

回答

①予算積算時点では新しく採用する奨学生の進学先が決定していないため、上限額で設定しているため

②令和2年度から国の修学支援制度が始まったことで、当該支援制度を利用した学生は、国からの支援があるため、授業料等の支払いがなかったため

(4)市議会における審議の概要②

議員の質問

人数は条例や要綱で決めているのか？

国の修学支援制度利用者が増えて結果的に**予算が余る**のであれば、減額補正するのではなくて、逆に**支援対象者数を増やすべき**では？

回答

要綱で10名と定めている。

制度設計については指摘された課題を関係部局と調整する。

⇒その後も継続的に、**対象者増の要望**を続けたところ
令和3年度の奨学生 10名⇒**12名**に増員実現



ご清聴ありがとうございました。

教育福祉常任委員会